

令和3年度 事業報告

自 令和3年4月1日

至 令和4年3月31日

一般財団法人 MOA健康科学センター

I 法人の概況

1. 役員に関する事項

役員一覧

(令和4年3月31日現在)

役職	氏名	勤務先／役職
理事長	鈴木 清志	一般財団法人MOA健康科学センター 理事長
専務理事	八木澤幸生	一般財団法人MOA健康科学センター 事務局長
常務理事	片村 宏	医療法人財団玉川会 理事長
理 事	渡瀬 信之	東海大学 名誉教授
〃	陽 捷行	北里大学 名誉教授
〃	松尾 汎	医療法人松尾クリニック 理事長
〃	宇田川和也	宇田川和也法律事務所 所長
〃	佐久間哲也	医療法人財団玉川会 理事
〃	立川 豊吏	医療法人財団愛和会 理事長
〃	中島 宏平	一般社団法人MOAインターナショナル 理事長
〃	有馬佐和子	医療法人財団玉川会MOA新高輪クリニック 看護師長
業務執行理事	木村 友昭	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
〃	内田 誠也	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
監 事	岡崎 譲治	株式会社エム・オー・エー商事 専務取締役
〃	石原 義之	東方之光 理事

計15名（理事／13名 監事／2名）

2. 評議員に関する事項

評 議 員 一 覧

(令和4年3月31日現在)

氏名	勤務先／役職
長南 征二	東北大学 名誉教授
蝦名 玄大	医療法人財団瑞泉会 理事
柴 維彦	医療法人財団玉川会 理事
横山 茂弘	東方之光 理事
水野 昌司	公益財団法人農業・環境・健康研究所 常務理事
小菅 豊弘	株式会社エム・オー・エー商事 取締役
矢代 勝也	公益財団法人岡田茂吉美術文化財団 理事
大門 一樹	東方之光国際委員会 事務局長
笹岡 勝利	一般社団法人MOAインターナショナル MOA TOKYO 地区長

計9名

3. 顧問に関する事項

顧 問 一 覧

(令和4年3月31日現在)

役職名	氏 名	職 業 等
顧 問	菅野 久信	産業医科大学 名誉教授
同	チャクリット・プーミサワット	元タイ国衛生省事務次官室監査委員会 監査官
同	牧 美輝	医療法人財団光輪会 理事長

計3名

4. 事務局員に関する事項

事務局員一覧

(令和4年3月31日現在)

事務局長	八木澤幸生
事務局次長	泉谷 明宏
事務局次長	利見 晃二
総務管理課 課長	柴田 和廣

計4名

5. 研究スタッフに関する事項

研究スタッフ一覧

(令和4年3月31日現在)

研究顧問	菅野 久信 (医学博士)
研究部部长	片村 宏 (医師、医学博士)
研究部次長 主任研究員	木村 友昭 (博士 (医学))
〃	内田 誠也 (博士 (工学))
研究部課長 研究員	加藤孝太郎 (博士 (農学))
研究部主任 研究員	田中 英明 (博士 (公衆衛生学))
客員研究員	津田 康民 (博士 (理学))
〃	深澤 大輔 (鍼灸指圧師)
〃	富嶋 謙之 (准看護師、メンタルヘルス心理カウンセラー)

計9名

6. 研究推進委員会および治験審査委員会に関する事項

令和3年度委員一覧

(令和4年3月31日現在)

役職	氏名	勤務先／役職
委員長	鈴木 清志	一般財団法人MOA健康科学センター 理事長
副委員長	片村 宏	医療法人財団玉川会 理事長
〃	内田 誠也	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
委員	長南 征二	東北大学 名誉教授
〃	木嶋 利男	伝統農法文化研究所 代表
〃	松尾 汎	医療法人松尾クリニック 理事長
〃	森岡 尚夫	医療法人財団玉川会 理事
〃	柳川 勉	NTTエレクトロニクス株式会社 品質管理部門長
〃	立川 豊吏	医療法人財団愛和会 理事長
〃	杉岡 良彦	一般財団法人信貴山病院分院上野病院 医師
〃	蝦名 玄大	医療法人財団瑞泉会 理事
〃	柴 維彦	医療法人財団玉川会 理事
〃	中島 宏平	一般社団法人MOAインターナショナル 理事長
〃	田渕 浩康	公益財団法人農業・環境・健康研究所 業務執行理事
〃	矢代 勝也	公益財団法人岡田茂吉美術文化財団 理事
〃	八木澤幸生	一般財団法人MOA健康科学センター 事務局長
〃	木村 友昭	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
〃	加藤孝太郎	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部課長
〃	田中 英明	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部主任

計19名

7. 編集委員会に関する事項

令和3年度委員一覧

(令和4年3月31日現在)

役職	氏名	勤務先／役職
相談役	片村 宏	医療法人財団玉川会 理事長
委員長	木村 友昭	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
副委員長	内田 誠也	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
副委員長	加藤孝太郎	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部課長
委員	柴 維彦	医療法人財団玉川会 理事
〃	八木澤幸生	一般財団法人MOA健康科学センター 事務局長
〃	利見 晃二	一般財団法人MOA健康科学センター 事務局次長
〃	田中 英明	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部主任

計8名

8. 倫理審査委員会（利益相反管理委員会兼任）に関する事項

令和3年度委員一覧

（令和4年3月31日現在）

役職	氏名	勤務先／役職
		（医学・医療の専門家、自然科学の有識者）
委員長	片村 宏	医療法人財団玉川会 理事長（医学博士、医師）
委員	蝦名 玄大	医療法人財団瑞泉会 理事（医師）
〃	有馬佐和子	医療法人財団玉川会MOA新高輪クリニック 看護師長（看護師）
副委員長	木村 友昭	一般財団法人MOA健康科学センター 理事（博士（医学））
委員	内田 誠也	一般財団法人MOA健康科学センター 理事（博士（工学））
〃	加藤孝太郎	一般財団法人MOA健康科学センター（博士（農学））
〃	田中 英明	一般財団法人MOA健康科学センター（博士（公衆衛生学））
		（倫理学・法律学の専門家、人文・社会科学の有識者）
副委員長	宇田川和也	宇田川和也法律事務所 所長（弁護士）
委員	佐田 喜朗	國學院大學大学院文学研究科（日本宗教学会会員）
〃	西 一嘉	翻訳家（博士（社会学））
〃	小野 努	東方之光教学祭事プロジェクト事務局
		（一般の立場）
委員	豊田 益代	管理栄養士
〃	田中千枝子	カウンセラー
〃	三井 淳子	一般（修士（工学））
〃	坂口 弘征	医療法人財団玉川会 事務長

計15名

9. 理事会に関する事項

開催日	主な審議事項
令和3年6月5日 定例理事会 (みなし決議)	令和2年度事業報告案承認に関する件、令和2年度決算報告案承認に関する件、定時評議員会招集及び提出議案に関する件、令和3年度倫理審査委員会委員に関する件、その他
令和4年3月21日 定例理事会 (みなし決議)	令和3年度収支補正予算書承認に関する件、令和4年度事業計画案承認に関する件、令和4年度予算案承認に関する件、倫理審査委員会規程等の改定に関する件、令和4年度顧問・委員・客員研究員に関する件、その他

10. 評議員会に関する事項

開催日	主な審議事項
令和3年6月25日 定時評議員会 (みなし決議)	令和2年度事業報告の内容報告の件、令和2年度計算書類等の承認に関する件、その他

Ⅱ 事業の概要

1. 総括

本年度は新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、日本社会は直接的、間接的に多大なる影響を受けた。日常生活における長期的な自粛あるいは行動制限に伴う生活の変化によるストレスや、終わりの見えないコロナ禍に国民は不安を抱えたままの状況にある。そのような中、本財団は「自然治癒力を生かす医学及び健康法」の普及を進める観点から、協力機関・団体と連携して、全人的医療や統合医療及び農医連携に関する調査研究活動並びに情報提供を進め、家庭や地域社会における健康づくりの推進に取り組んできた。

具体的には、全人的医療や統合医療として行われている心身の健康法、特に岡田式浄化療法をはじめとした岡田式健康法について、(一社)MOAインターナショナルや各医療機関と協力して調査研究に取り組んだ。研究推進委員会の小委員会で研究内容の検討を行い、倫理審査委員会による審査を経て、自主研究を軸とした調査研究の推進を図り、国内外の学会発表や学術誌での公表などを積極的に行った。

さらに、新潟県新潟市における「これからの医療とまちづくり」をテーマにしたシンポジウム(MOAインターナショナル及びMOA自然農法新潟県普及会連合会との共催)などを開催して、全人的医療や統合医療及び農医連携に関する研究成果や健康づくり関連の情報を広く発信することに取り組んできた。そして、国民の健康づくり運動「健康日本21」(第二次)の推進に貢献するとともに地域社会への健康増進の普及啓発につなげることができた。

また、コロナ禍の影響により対面式のセミナーや講演会の開催が困難な状況であったため、オンラインでのセミナーや感染症対策を徹底した上での健康度計測を実施することによって、地域社会で生活する一人一人のライフスタイルの改善について以前にも増してきめの細かい支援をするとともに、健康づくりに関する意識の向上を図ることができた。

以下、令和3年度の事業計画に基づき実施した事業活動の概要を報告する。

2. 調査研究事業

「心身ともに健康なまちづくり」に向けて、MOAインターナショナルとの連携強化と医療法人財団玉川会をはじめ全国の医療法人財団、地方行政・団体と連携し、岡田式健康法(浄化療法・食事法・美術文化法)をはじめとした統合医療の医療モデルや社会モデルに関係する調査研究を実施した。

(1) 東京療院との連携

医療モデルの一つである東京療院で行われている各種健康法のエビデンスを得るためのデータ(岡田式浄化療法、運動、マッサージ、コントロール)の収集、及び岡田式健康法の実践と自律神経機能、肩こり度、首尾一貫感覚(SOC)との関連性に関するデータの収集を行った。そして本人や家族の手記の基となる症例・事例のアンケートの検討と作成を行った。また、東京療院の晴風堂治療院と連携した「岡田式浄化療法とマッ

サージの併用に関する研究」の調査研究を進めることができた。

(2) MOAインターナショナルと連携した調査研究活動

MOAインターナショナル及び新田記念統合医学研究所と連携し、地域社会における健康問題の解決をめざして、岡田式健康法をはじめとした各種健康法が心身の健康に及ぼす影響についての調査研究や人材交流等を進めてきた。

① QOL評価に関する研究

生活習慣の改善や岡田式健康法の実践における効果を明らかにするため、QOLやスピリチュアリティ等の測定方法を検討した。

② 農産物と腸内フローラに関する研究

自然・有機・慣行農法で栽培した土壌及びニンジン中の細菌群集と、それらのニンジンを摂取したヒトの腸内フローラについて調査した結果について解析を行った。

③ 心的外傷後成長（PTG）に関する研究

心的外傷後成長（PTG）とスピリチュアリティや岡田式健康法をはじめとするライフスタイルの関連についての研究方法を検討した。

④ MOA研究に関する検討チームとの連携

MOA研究に関する検討チームに協力（事務局）して、下記の審査9件を行った。

- 1) 内田誠也（主任研究員）日本統合医療学会誌投稿分
- 2) 木村友昭（主任研究員）日本応用心理学会申請分
- 3) 田中英明（研究員）日本統合医療学会誌投稿分
- 4) 柴維彦（エムオーエー名古屋クリニック院長）日本統合医療学会申請分
- 5) 深澤大輔（晴風堂治療院院長、客員研究員）日本統合医療学会申請分
- 6) 内田誠也（主任研究員）日本心身医学会申請分
- 7) 内田誠也（主任研究員）日本生理心理学会申請分
- 8) 江副健一（光輪会鹿児島クリニック看護師）日本統合医療学会投稿分
- 9) 中川祥治（農業・環境・健康研究所研究員）日本健康心理学会投稿分

(3) 医療機関と連携した調査研究の推進

① 医療法人（玉川会、瑞泉会、光輪会、愛和会）との共同研究の充実

各医療法人のクリニック等の医療機関と連携し情報交換を行うとともに、医療機関が取り組む調査研究を支援した。特に、光輪会鹿児島クリニックが取り組んだ免疫研究のデータの分析及び論文作成を共同で行った。

② 岡田式健康法による症例・事例の調査及び作成

エムオーエー名古屋クリニックが実施したがん患者のQODに関わる症例の調査及び論文作成に協力した。

(4) 国内外の研究機関、行政機関及び各種団体等との連携

① 農業・環境・健康研究所との調査研究及び人材教育の連携

有機・自然農法農産物と腸内細菌叢との関係に関する研究に協力するとともに、自然農法大学の学生への有機農産物と健康に関する講義を行った。

② 広島市内の介護施設及び広島大学との共同研究

広島市内の介護施設及び広島大学との共同研究「通所介護サービスの利用者におけ

る脳機能の評価に関する予備的研究」の結果を取りまとめた。また、「障がい児の保護者におけるQOL、児童発達支援事業に対する満足度、および療育効果との関連の検討」の調査研究を実施した。

③ 日本大学国際関係学部との共同研究

P T Gと宗教的特性スピリチュアリティの関連についての研究を立ち上げ、共同研究の実施に向けて準備を整えた。

④ 研究協力協定に基づく共同研究

タイ国文科省及びタイ国ダムナンサドゥアック市立病院との共同研究を継続した。

⑤ 長野県阿南町富草診療所の研究支援

長野県阿南町「富草へき地診療所」及びMOAインターナショナルと協同して、引き続き岡田式浄化療法の調査研究を進める計画をしていたが、新型コロナウイルス感染拡大により研究を進めることができなかった。

⑥ 学会との連携

鈴木清志理事長（日本統合医療学会理事・国際委員会委員長）、木村友昭理事（日本応用心理学会常任理事・学会賞選考委員会委員長）、内田誠也理事（日本生理心理学会評議員）及び加藤孝太郎研究部課長（日本有機農業学会研究活動委員）は、各人が所属する学会において役職を担い貢献してきた。

⑦ 各種団体との連携

「信仰をもつ医療者の連帯のための研究会」及び「いのちの研究会」の開催に伴う運営等の協力を行った。

⑧ 各種研究機関・研究者との連携

山本健二（九州大学名誉教授）の調査研究「一般的に健康な状態または低体温傾向の状態にある被験者が浄霊を受けることによって得られる有益な効果」（米国学術誌「エクスプロア」掲載）に関して協力を行った。

（5）研究推進委員会、倫理審査委員会による研究体制の充実

① 研究推進委員会・小委員会の充実

1）内部研究小委員会

内部研究小委員会は4回開催し、今後の研究のあり方と方向性の検討を進めた。具体的には、症例作成（神奈川県、愛知県、福井県等）、臨床研究（東京療院、南九州療院、名古屋療院等）、統合医療の医療モデルと社会モデル及び感染症対策などの検討を行った。

2）外部連携小委員会

外部連携小委員会は、2011年の研究助成「ヒト免疫不全ウイルス（H I V）に関する岡田式浄化療法の効果研究」（コンゴ国立健康科学研究所）に関して、研究助成終了報告書及び会計報告書の確認に基づき、本研究助成の終了を認定した。

② 倫理審査と利益相反の管理に基づく研究の充実

1）倫理審査の実施

倫理審査委員会では、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づき、研究計画「肩の筋硬度計を用いてストレス緩和効果を評価することの有効性

に関する研究」の倫理審査申請に対して、研究計画の変更に関する迅速審査を実施した。また、利益相反管理委員会では、役員や研究責任者のCOI管理を適宜実施した。

2) 倫理審査に関わる規程の改定

令和4年3月21日の理事会において、本財団の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する規程」及び「倫理審査委員会規程」について、国の倫理指針の改定（令和3年）に基づき改定を行った。また厚生労働省の「倫理審査委員会報告システム」にその各規程の登録を行った。

3) 倫理審査委員会の充実

- a. 令和3年6月5日の理事会において、審査体制の充実を図るため、「医学・医療の専門家、自然科学の専門家」の委員の増員を行った。
- b. 令和4年3月21日の理事会において、「倫理学・法律学の専門家、人文・社会学の有識者」の欠員補充に伴う委員の委嘱を行った。

3. 普及、広報活動の充実

「心身ともに健康なまちづくり」に役立つ調査研究の推進に向けて、岡田式健康法の研究成果を分かりやすく社会に紹介する資料や情報の発信に努めてきた。

(1) 東京療院を中心とした普及広報

東京療院で健康チェックを70回実施し、480名を受け入れた。（134,100円の寄付金）自然食レストランの利用者が健康チェックを受け、東京療院の健康法により健康づくりに努め改善したり、生活改善プログラムによるライフスタイルの改善が図られた人などが増えてきている。

(2) 「これからの医療とまちづくりシンポジウム」の地方開催の支援

① 「これからの医療とまちづくりシンポジウム in にいがた」

期 日：令和3年11月14日

主 催：（一財）MOA健康科学センター、（一社）MOAインターナショナル、
MOA自然農法新潟県普及会連合会

後 援：新潟県、新潟市、佐渡市、佐渡汽船株式会社 他

会 場：新潟市メディアシップ日報ホール、リモート会場4施設

参加者：会場 226名、リモート会場 204名

内 容：基調講演 鈴木清志（MOA健康科学センター理事長）

シンポジウム 板垣和弥（新潟県MOA自然農法普及会連合会会長）

渡辺優子（MOA食育指導員、自然農法生産者）

小林尚子（元佐渡市立両津小学校教諭）

田井中一貴（新潟大学脳研究所教授）

山崎理（新潟県柏崎地域振興局長）コーディネーター

(3) 研究成果の公表

① 編集委員会による研究報告集第25巻の発刊

編集委員会を開催し、研究報告集第25巻を発刊（令和4年2月4日）した。本

巻の掲載論文は6報（「研究報告」2報、「実践・事例報告」1報、「資料」1報、「転載」2報）であった。

1) 研究報告

- a. 「喫煙者と非喫煙者における包括的QOLおよびスピリチュアルな態度の比較検討 ―民間企業の従業員を対象にした横断的調査の結果より―」
木村友昭、佐久間哲也、伊坂裕子、烏帽子田彰
- b. 「顎関節症を伴う線維筋痛症患者における無作為比較試験：岡田式浄化療法及びデ
ュロキセチン混合処方とデュロキセチン処方のみと比較」（翻訳）
ジャンルカ・ブルティ、マヌエラ・ラモス・アテンチョ、アンナ・ドウル
ソ、パオラ・ディジャコモ、カルロ・ディパオロ

2) 実践・事例報告

- a. 「コミュニティにおけるソーシャル・サポートについて心的外傷後成長の
視点から
の考察―20年にわたって乳がんを罹患してきた一事例を通して―」
柴維彦、田中英明

3) 資料

- a. 「岡田式健康法は認知症予防に役立つか？―北海道・道北地域で行われた
スクリー
ニング調査結果の再検討と今後の展望―」
木村友昭

4) 転載

- a. 「統合医療施設におけるがん患者のQOLとスピリチュアルな態度の検
討」
木村友昭、鈴木清志、片村宏、牧美輝
- b. 「岡田式健康法を実践するがん患者の対処行動に関する質的研究」
田中英明、神田康代、鈴木清志、片村宏、木村友昭

② 各種専門学会への発表

- 1) 第39回日本生理心理学会（オンライン開催、5月22日～31日）
発表者：内田誠也（業務執行理事、主任研究員）
タイトル：肩こりと首尾一貫感覚の関係
- 2) 第62回日本心身医学会総会および学術講演会（7月10日～7月11日）
発表者：内田誠也（業務執行理事、主任研究員）
タイトル：首尾一貫感覚とライフスタイルの関係
- 3) 日本応用心理学会第87回大会（オンライン開催、8月28日～29日）
発表者：木村友昭（業務執行理事、主任研究員）
タイトル：通所介護サービスの利用者における認知機能の評価―広島県の
介護施設における予備的検討―
- 4) 日本土壌肥料学会2021年度北海道大会（オンライン開催、9月14日～9月

16 日) 発表者: 加藤孝太郎 (研究部課長、研究員)

タイトル: 有機栽培キャベツ連作黒ボク土畑圃場における 7 年間の窒素収支と浸透水中窒素濃度—化学肥料連用圃場との比較—

5) 第 22 回日本有機農業学会大会 (オンライン開催、12 月 4 日~12 月 5 日)

座長: 加藤孝太郎 (研究部課長、研究員)

セッション名: 農医連携と有機農業

6) 第 24 回日本統合医療学会 (オンライン開催、12 月 18 日~12 月 19 日)

a. 発表者: 柴維彦 (研究推進委員)

タイトル: 当院での訪問医療相談の実践報告~地域包括ケアシステムにおける統合医療の有用性の一例

b. 発表者: 深澤大輔 (客員研究員)

タイトル: マッサージと他の療法の併用による安全性や相乗効果の検証

③ 専門誌への投稿 (医学系、科学系等)

1) 原著論文

a. 「東洋と西洋の医療従事者のスピリチュアリティ、宗教性、およびスピリチュアル

ケアに対する認識の比較」 (日本統合医療学会誌 14 巻 2 号、pp. 122-131)

田中英明、木村友昭、内田誠也、鈴木清志

2) 報告論文

a. 「岡田式健康法を実践するがん患者の対処行動に関する質的研究」 (日本統合医療学会誌 14 巻 1 号、pp. 53-61) 田中英明、神田康代、鈴木清志、片村宏、木村友昭

b. 「首尾一貫感覚 (SOC) と食事に対する意識との関連—健康チェック参加者の質問調査より—」 (日本統合医療学会誌 14 巻 2 号、pp. 144-149)

内田誠也、柴維彦、田中英明

(4) 広報資料の充実

① 会員誌と資料 (冊子、DVD 等) による情報提供

1) 会員誌「21 世紀の健康科学」第 62 号の発刊 (令和 4 年 3 月 15 日)

会員誌「21 世紀の健康科学」第 62 号を発刊し、「これからの医療とまちづくりシンポ

ジウム in にいがた」の詳細を掲載し、賛助会員・団体に情報の提供を行った。

2) 会員向けの資料 (ニュースレター「すこやかだより」) の発行

健康チェックのリピーターが岡田式健康法を通して改善した体験談 (生活習慣病の改善

事例) を紹介する「ニュースレター No. 1」を発刊することができた。

3) MOA インターナショナル発行の情報誌との連携

MOA ニュースレターに鈴木清志理事長が「岡田式健康法を科学する」を連載した。

4) 講演会・セミナーや研究紹介の資料 (冊子、DVD 等) の作成と活用

各種セミナーで研究員が講演を行った内容をDVD化し、今年度は新作4種類を作成した。現在合計で17種類となった。また、366枚の頒布を行った。

a. 「岡田式健康法を実践するがん患者の対処行動に関する質的研究」

演者：田中英明（研究員）

b. 「ウィズコロナ時代の岡田式健康法」

演者：内田誠也（業務執行理事、主任研究員）

c. 「有機・自然農法と地球・土壌・腸内環境の関わり」

演者：加藤孝太郎（研究部課長、研究員）

d. 「美術文化ボランティアのスピリチュアルな態度の変化」

演者：木村友昭（業務執行理事、主任研究員）

② インターネット配信と充実

1) ホームページの更新と充実

一般市民への情報提供の充実を図るべく、ホームページのスマートフォン用ページを作成した。本財団の事業・活動に関する情報、健康に関連する情報、研究成果等に関して定期的に更新することで、普及広報活動の情報発信に取り組んだ。1年間で4,268ユーザーがホームページを閲覧した。

2) SNSの更新と充実

a. YouTube 動画配信による普及広報

岡田式健康法の動画を7種類(①「健康チェック動画」、②「2021 年度健康科学セミナーDVD紹介動画」、③「DVD紹介自然農法動画」、④「ウィズコロナ時代の岡田式健康法」、⑤「岡田式浄化療法の研究はどこまで進んだのか?」、⑥「有機・自然農法と地球・土壌・腸内環境の関わり」、⑦「ウィズコロナ時代に花や芸術による癒し」)作成し、YouTube を活用し配信した。チャンネル登録者数は216名、総視聴回数は7,784回で、多くの人に岡田式健康法の有効性を広報できた。

b. LINE 公式アカウントによる普及広報

LINE 公式アカウントによる健康チェックの広報活動を行った。現在登録者数206名となり、健康チェックのスケジュール情報の発信、ポイントカードによるサービスなどを行った。

③ 研究報告集第24巻の外部団体・機関の図書館等への登録（送付）と医学系及び科学系機関のデータベースとの連携推進

1) 国立国会図書館、医学中央雑誌刊行会及び科学技術振興機構への納本により、各機関のデータベースに研究報告集の内容が収録された。

2) 全国の大学の医学図書館、主な医療機関、独立行政法人等の調査・研究・情報機関、

大学付属図書館及び公立の図書館などに送付した。合計470施設。

(5) 講演会、研究会、セミナー、健康度測定の実施

「健康日本21」運動の推進を願い、全国各地の健康関連行事において、MOAインターナショナルと連携し、健康科学セミナーや血管年齢、肩こり度、ストレス度等の

健康度測定を行うことを通して、地域社会における健康づくりに取り組んだ。聴講者や体験者からは、「健康づくりにとても参考になった」などの声が寄せられ、ライフスタイルの改善に向けて意識の転換を図ることができた。

① 健康科学セミナー

コロナ禍の影響によりMOAインターナショナルと連携したオンライン形式による4回（6/23、7/28、8/25、9/28）の健康科学セミナーを実施した。合計約280名が聴講し、大きな反響を得ることができた。

②「統合医療を推進する健康増進セミナー」

（主催：NPO法人静岡県傾聴ボランティアネットワーク）

日 時：令和3年6月12日

内 容：講演 加藤孝太郎（研究部課長、研究員）

③「美味しいまちづくりシンポジウム in ちば」

（主催：美味しいまちづくりシンポジウム in ちば実行委員会、MOA食育ネットワーク千葉）

日 時：令和3年8月28日

内 容：講演 加藤孝太郎（研究部課長、研究員）

④ 第2回「あなたの健康チェック」

（主催：MOA食育ネットワーク・千葉ハピネスクラブ）

日 時：令和3年11月23日

内 容：講演 内田誠也（業務執行理事、主任研究員）

⑤ 第4回「心身ともに健康なまちづくりスタディセッション」

（主催：NPO法人静岡県傾聴ボランティアネットワーク）

日 時：令和3年11月23日

内 容：講演 鈴木清志（理事長）

⑥「くすり・たべもの・からだの協議会」第24回講演会

（主催：くすり・たべもの・からだの協議会）

日 時：令和4年3月26日

内 容：講演 鈴木清志（理事長）

4. 事業基盤の充実と拡大

（1）賛助会員

賛助会員登録数は、団体会員16団体、個人会員1,937名（令和4年3月末現在）である。特に本年は、コロナウィルス感染拡大の影響から健康増進セミナーや健康度測定の中止を余儀なくされ、広報活動の自粛から会員数は昨年度と比較し減少傾向となった。

しかし健康情報誌の作成（ニュースレター）やチラシの配布等を通して積極的に賛助会員入会の案内を進め、新規に個人会員68名を得ることができた。

（2）寄付金収入

地域のシンポジウムや講演会、DVDの頒布、ホームページ等を通して研究成果を広く伝え、統合医療の有効性を訴えていくことにより、財団運営・活動へのご支援を積極的

をお願いしてきた。本年度は、賛助会員や関係者の方々また各団体をはじめ一般の方々から、年間で約 40 万円の真心こもる寄付金をいただくことができた。

以 上